活動３
・面をつける。
・基本打ち

短時間で面つけ

お互いで協力・確認

真剣！面打ち特訓

面打ちのポイントを指示

・　グループで協力、確認をし、面ひもを素早く結んで準備をした。早く準備ができたグループから試合につながる面打ちを練習した。

活動４
面に対する応じ技の練習

面すり上げ面
（面に対する応じ技）

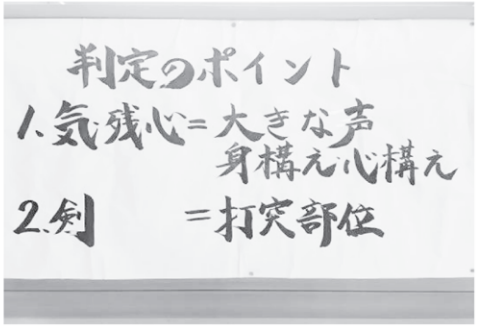
試合で使いたい技を確認
（グループ学習）

・　グループごとに場所を決めて、面に対する応じ技の練習をした。グループのメンバー全員と、繰り返し試合で使いたい技の練習をした。

活動５
攻防一体型
の試合の確
認

試合前の礼法・マナーについて確認

四人一組（２チームは三人一組）の団体戦



・　白組から 30 秒間に３回面を狙って打つ。
・　赤組はそれに応じて打つ。
・　判定基準を確認しながら、グループで相談して得点を付ける。

・　攻防一体型の試合をするため、判定基準や礼法について確認を行った。

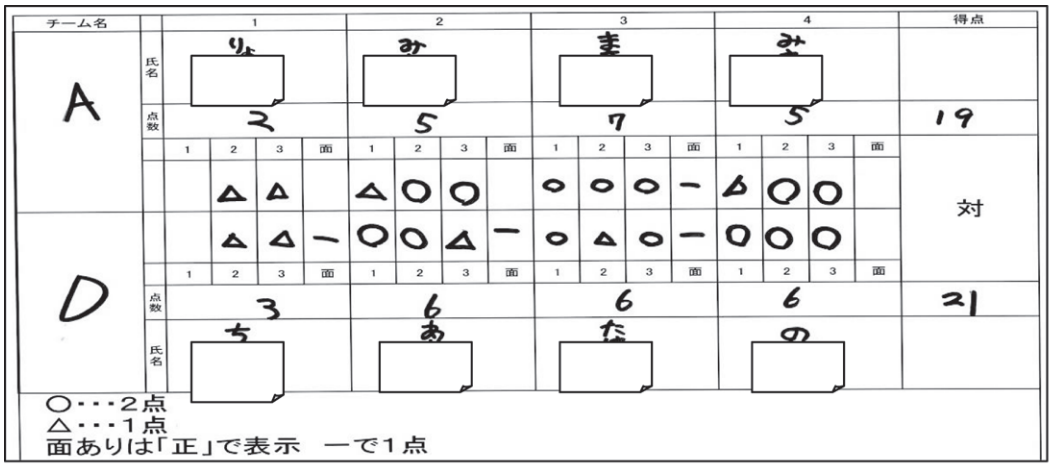
活動６
攻防一体型
の試合

真剣な攻防　面もしっかりと狙っている。

面返し胴の有効打！

・　攻防一体型の試合の中で、面を打ってくる相手に対して、応じ技ができたかどうかグループで相談して得点を付けた。真剣な取組であった。

活動７
攻防一体型
の試合



本日の試合の振り返り。対戦相手の得点表と違いがあったかな？

・　試合後、対戦相手とともに本日の試合を振り返った。よかったところや改善したらよいところなどを話し合った。

活動８
まとめ

生徒の感想（学習カードより）

・　繰り返し練習できたので、思ったよりも上手に打てた。もう一つ、面に対する応じ技ができるようになりたい。
・　得点表を見ながら、自分から進んで話し合うことができた。○○さんが胴を打ったときに、音が響いて気持ちよかった。
・　本気の相手に対する応じ技は、とても難しかったが、成功したときは最高にうれしかった。
・　自分たちで考えた技が、もう少しで習得できそうだ。

・　攻防一体型の試合の中で、面を打ってくる相手に対して、それぞれ気迫のこもった声を出し、すばらしい応じ技が出ていたことを振り返った。学習カードで自己評価をし、次時には面と小手を打ってくる相手に対して応じ技を打てるように練習することを確認した。

【研究協議】

1　研究の視点

（1）簡易竹刀の利用が、応じ技を考えたり、行ったりする活動の活性化につながったか。
【教材解釈力】【授業実践力】

（2）グループで協力し、技を身に付けるための支援や声掛けができ、楽しく安全に活動することができたか。【生徒理解力】

2　自評

○　研究の視点の（1）について

本時の授業では、これまでの授業で竹刀を振り切れていなかった女子や筋力の弱い男子たちがしっかり振り切って打ち込むことができていた。最後の話合いの場面でも表情を見ると穏やかでいい顔をしていた。軽くて動かしやすい簡易竹刀を試合で使うということが、有効な方法の一つであると感じた。

剣道が好きな男子生徒が「竹刀で試合がしたい」と言ってきたことがあり、簡易竹刀での試合が終わったら最後に竹刀を使って試合しようかなと声を掛けたり、素振りなどの基本練習をするときに竹刀を渡して使わせたりしていたが、30回の跳躍素振りで重くて振れないと言ってきたことがあった。そのことからも、意欲がある男子生徒でも授業という短い練習時間では、限界があると感じた。竹刀でやれると思っている生徒でも、簡易竹刀を使う効果はあると感じた。

○　視点（2）について

生徒たちは、協力し、楽しく安全に行っていたと感じた。しかし、自分自身は十分に生徒たちに指導が行き届かず、一人では限界があった。また、ＩＣＴ等の操作に振り回されてしまったので、もう少し落ち着いて生徒たちを見ることができればよかったと反省している。

3　グループ協議

【簡易竹刀について】

○　簡易竹刀を使うことで、体力のない生徒もスムーズに動くことができていた。

○　ユニバーサルデザイン化の面からも、簡易竹刀の使用は、取り組みやすいものであると思う。

○　簡易竹刀は、恐怖感を取り除いたり、安全面を配慮したりするには有効なものであると思う。

○　視点（1）、操作性、運動量の確保、安全性、楽しさなどの面から、また、導入に使うのには適しているなど簡易竹刀の効果を感じた。

●　試合の中で、抜き胴より、すり上げ面を打っている生徒が多かったように思う。その理由としては、待っていて面を打たれるのがいやだということからだと思われる。また、簡易竹刀ではすり上げる技（竹刀と竹刀が干渉する技）は難しく、たたくなどの技の方がしやすいのではないかと思われる。

●　簡易竹刀だけでは、最終的なねらいを達成できない。授業者がしっかりとした目的を持って使い分け、バランスをとりながら指導していくことが必要である。

【その他】

○　指示をはっきりとすることができ、和やかな雰囲気で授業が展開されていた。

○　子どもたちが規律正しく一生懸命活動することができており、先生がこれまで細か

く丁寧に指導されている成果だと思う。

○　グループ活動についても、準備運動から基本動作まで、協力して行われており、流れもスムーズでよく訓練されている。グループ活動の中で、アドバイスし合ったり、安全面についても声を掛けたりすることができていたと思う。しっかり見ることもできていた。

【剣道連盟より】

すばらしい授業であった。我々剣道連盟も文部科学省からの要請で協力をしており、今後の参考にさせていただくために、本日参加させていただいた。

全日本剣道連盟では、授業の展開という冊子を配布しており、さらにダイジェスト版を作成している。経験の少ない先生にも是非利用してほしい。伊東先生も経験が少ないとお聞きしていたが、協力者の先生からしっかり学び、的確に要点を指導されていた。授業の様子を見て先生の人柄のよさを感じた。

剣道に対する固定観念が強い中、簡易竹刀を使用することで、子どもたちにとって安全で、振りの速い剣道を展開できた。子どもたちの動機付けにつながり、簡易竹刀のアイディアを提案された柴田先生に改めて敬意を表したい。他校でも簡易竹刀を用いた授業によって、段階的に指導を進められており参考になった。

剣道の特性である竹刀を持って攻撃する、攻撃されるという本能的な行為だけではなく、武道にとっては「惻隠の情」と言われる思いやりの心がとても重要である。この武道の本質を子どもたちにどう指導されていくのか関心があるが、本時の授業を見る限りよく指導されていたと感じた。着装もよくできており、しっかり指導されていた。形に表すことで相手に伝わるものだと思うので、形や所作を大事にして指導をしていただきたい。

授業が終わったときの生徒の表情を見て、この授業の素晴らしさを感じた。お礼を申し上げたい。

4　指導助言　　【流通経済大学スポーツ健康科学部　教授　柴田　一浩】

いい授業であった。先生はとても悩みながら今回の授業に取り組まれてきた。授業で学習してきた技を生かして、特に女子に思いきり打たせたいという思いから、簡易竹刀を使用した授業を行いたいと考えてこられた。これまでの先生の教科経営もすばらしく、子どもたちも先生のことが大好きで、「今日はがんばるぞ。」という気持ちが伝わってきた。双岩中は今年度で閉校ということだそうだが、学校の歴史に名を残すようなすばらしい３年生たちの姿であった。参観者も多い中、声もよく出ていたと思う。学校全体のチームワークで子どもたちを支えてこられてきた成果が出されていたと思い、感激した。

教員の指導だけでは、着装の徹底が難しいところであるが、授業協力者の指導協力もあり、本時の授業の様子を見たところ、しっかりと着装できていたと思う。また、先生ご自身も授業協力者の先生からしっかりと学んでおり、技能も高い。中学３年生の授業を見せていただくのは初めてであったが、生徒たちの技能もとても高いと感じた。

竹刀を介して行う技（竹刀に触ってから行う技）は、難しいと捉えられているので、学習指導要領の解説には、相手の打突を空振りさせてから打つ面や胴、つまり竹刀を介さない技が１、２年生には例示されている。今回、技能の高い子どもたちが挑戦していた技の「面すり上げ面」は、高校２年生以上に例示されている難しい技である。応じ技は、「さあ来い」という気持ちをもち、攻撃する意識が大事である。学習カードにはこ

のポイントがしっかりと組み込まれていた。

今後、指導要領の改訂が行われていくが、主体的・対話的で深い学びを期待されるところである。今日の授業の中でも、そのねらいが達成されていたと思う。先生も発問を工夫されていた。

また、ＩＣＴ機器の活用もされていた。次の改訂では「ＩＣＴの活用」や、「共生」、「多様性」というものがキーワードとなる。技能差、男女差だけでなくさまざまな差に対応できるような授業が求められる。今日の授業でもそれらに対応できるような工夫をされてきたと思う。

思考力・判断力そして、表現力を身に付けさせていくには「書く」という作業、言葉や文字で表現する活動を取り入れる必要が出てくるが、今回使用されていた学習カードのように、できるだけ短時間で簡単に記入できるような工夫が求められると思う。

感心したのは、子どもたちがあれだけ長い時間面を着けていたということである。これまでの経験では、大学生でも７分くらいで面を外したくなってきていたが、今日の子どもたちの頑張りは本当にすばらしかった。

最終的には竹刀を使っての授業を行う必要があると思うが、動きづくりの学習段階では今回使用した簡易竹刀は有効であると思う。狙ったところが打てるようになったら、竹刀に切り替えていくとよい。本来、中学生は３尺７寸の竹刀であるが、３尺４寸（１０５㎝）の少し短い竹刀を使ってみてはどうかと考えている。

双岩中では、１、２年生で竹刀を使った学習をしてきたが、今回は思い切り打つことをねらいの一つとし、簡易竹刀を取り入れていただいた。そのねらいどおり、女子も思い切り打ち込んでいい音が出るようになっていた。また、男子が女子に打ち込んでも不平不満も出ない人間関係も築けており、学校の支持的風土がすばらしいと感じた。

もう一つ、攻めと守りを分離するという考え方を取り入れてもらった。球技でも同じだと思うが、相手の動きによって攻めと守りが変化するオープンスキル型のものは、練習した技を試合でうまく出しにくいという課題がある。だから、攻め・守りを分離して、それぞれを保証した学習をしていくことで、練習したことを試合の中で生かせるようになるのではないかと取り組んできた。先生も、「打つ方はどうすれば返されないか」、「応じる方はどうすれば応じられるかを考えながら打とう」という声掛けをされていた。

「技の練習と試合をどうつなぐか」ということが柔道や剣道の課題である。相撲は試合が容易にできるが、発展していかないところに課題があると言われている。そのようなことを解決するための手立てとして、今回の取組をしていただいた。

授業のタイムマネジメントもよかったと思う。単元の前半は、基礎練習の時間が長くなると思うが、後半は試合をする時間を長くとれるような形でいけるようになると思う。今日の子どもたちの様子を見ると、有効打突の判定もできるようになるのではと感じた。授業では「一本」を求めることはないが、この子どもたちなら単元の最後にはそれもできるようになると思う。

単元の時数でいうと、全国の平均では９時間である。13 時間はとても長く設定してもらっていて、これだけやれば攻防の楽しさを味わうまで、深い学習ができると思う。現状からすると、各学年とも９時間の単元計画で実施している学校が多いようであるが、復習に時間をとられ、積み上げの学習が限られてしまうことを考えれば、１、２年のいずれかの学年にまとめて 13 時間から 15 時間学習した方が、技能が高まるという調査結